



学童保育

本学では、教職員や学生の仕事（学業）と生活の両立支援として、小学校の長期休暇中の学童保育として「ヤマミィ学級」を実施しています。

開催時間／月曜日～金曜日
8:00-18:00
対象／小学1年生～6年生



保育場所がキャンパス内にあるため、お子様と一緒に出勤し、退勤後はすぐに迎えに行くことができます。昼食時間は親子でリフレッシュしたり、お子様が体調不良の際にはすぐに対応できるなどのメリットがあります。
また「ヤマミィ学級」では、教員の研究や学生のサークル・部活動を活かしたもの、職員の知識や特技を使ったもの、地方公共団体との連携によるものなど多彩なプログラムを盛り込んでいます。大学ならではのこのプログラムは大変ご好評をいただいています。



カウンセリング

ダイバーシティ推進室では、カウンセリングを受付けています。相談内容はもちろんのこと、問い合わせや申込自体も守秘されます。

- 利用可能な曜日…毎週／月曜日、第2・4週／火曜日（2021年4月より）（祝日を除く）
- 利用可能な時間帯…9:00-17:00
- 利用申込先…yd-sodan@yamaguchi-u.ac.jp（カウンセリング専用）



心配ごとや気がかりが多い時、こころやからだが重く感じられ、仕事に集中することが難しくなります。また、自分が「本当はどうしたいのか」に気づくことも難しくなります。カウンセリングは、こころの声を聴きながら、これからどのようにありたいかを感じ、じっくり考えていく営みです。日々の忙しさで自分を振り返る時間が持てない！という方ほど、少し意識的に自分のための時間を作ることが変化のきっかけにもなります。こころを整理したり、気づきを得たり、軽やかに本来の持ち味を活かせるこれからのために、一緒に探索してみませんか？自分自身のこと、対人関係、仕事、家庭生活などどんなことでも構いません。ライフイベントやワーク・ライフ・バランスに関すること、リフレッシュの時間としてもご利用いただいています。箱庭などの自己表現の機会や自分の傾向を振り返るチェックシートの活用等のご希望にも添えます。ご予約優先ですが、当日対応できることもありますので、お気軽にお問合せください。



SOGI LGBT

今後も、より多くの方にLGBTやSOGIについて理解を深めていただくことを目的とした取組を進めるとともに、ilmaと共同したイベントを開催していく予定です。

今年度は、ilma（イルマ）とダイバーシティ推進室の共同イベントを2回開催しました。第1回は、2020年10月26日（月）に新1年生を対象として、第2回は、2020年11月30日（月）に学生・教職員を対象として、SOGIに関して理解を深めるための映像視聴や、ilmaによるプレゼン、参加者によるディスカッションを行いました。



ilmaからのメッセージ

私たちは「ilma」というアライサークルでアライを増やす目的で活動しています。アライとは「LGBTを支援する人」を指します。「LGBTを知って、これからの大学生活を広い視野と柔軟な考えで、より充実したものにして欲しい」という考えのもと、ダイバーシティ推進室と共同でイベントを行いました。もっとこの活動を学内に広め、山口大学内からお互いのことを尊重できるようになり、みんなが過ごしやすいなと思います。



学内からのご意見

ダイバーシティ推進室には、ダイバーシティの推進に関する様々なご意見が寄せられます。とても力になります。お気づきの点や質問など、お気軽にご意見をいただければと思います。

【これまでいただいたご意見の事例】

- ・山口大学がHPなどで公開している学生概要（志願者数など）に女子学生の数を（ ）で示すのはやめるべきだ。
→現在、他大学の動向を調査中です。多様なSOGIを尊重という側面からも、女子学生数の記載についての問題点は把握しております。早急に検討いたします。
- ・大学の名簿に女子学生だけ*を付けているのはおかしいので、やめるべきだ。
→SOGIガイドラインにもあるように、性別情報の公表については可能な限り廃止する方向で検討しています。しかし、名簿についてはシステム改修の必要があり、すぐには変更できないといった制約もあります。名簿の他にも、不必要な性別欄などがある書式があれば「事務作業効率化プロジェクト」のフォームからでも是非お知らせください。



山口大学ダイバーシティ推進室 ニュースレター vol.01
編集・発行 山口大学ダイバーシティ推進室
〒753-8511 山口県山口市吉田1677-1（事務局1号館3F） TEL 083-933-5997 / FAX 083-933-5992
E-mail ydpo@yamaguchi-u.ac.jp URL https://ds0n.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~diversity/



文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」

CONTENTS

- 鼎談:AIと女性研究者の可能性 p.2-3
- 研究支援 p.6
- 実施報告 p.7
- 支援制度紹介 p.8



国立高等専門学校機構宇部工業高等専門学校
副校長

日高 良和氏

山口大学
副学長 ダイバーシティ推進室長 経済学部教授

鍋山 祥子氏

山陽小野田市立山口東京理科大学
副学長・学生部長 薬学部教授

井上 幸江氏

キックオフ 鼎談 「DAIラボ」を活用 産学公連携で研究活性化プログラム 「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」に採択

山口大学を代表機関として取り組む「DAIラボを軸とした産学公連携によるやまぐちの女性研究者研究活性化プログラム」が、2020年度の文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」に採択されました。2025年度まで6年間の事業スタートに当たり、代表・共同実施機関のうち高等教育3機関の実施責任者がキックオフ鼎談を行い、教育・産業界や地域の方々とともに取り組むビッグプロジェクトへの決意を新たにしました。

多様な研究環境を整備、男女共同参画を推進

鍋山 日本における女性研究者の割合は、欧米の先進国に比べて低く、山口県でも例外ではありません。こうした中で、今回採択された科学技術人材育成事業は、地域の教育・研究機関、企業、自治体がコンソーシアムを組み、研究環境のダイバーシティ(多様性)を高めて女性の活躍を促進し、男女共同参画による科学技術イノベーションの基盤力強化を目指すものです。

山口東京理科大学と宇部工業高等専門学校(宇部高専)は、宇部興産株式会社、株式会社トクヤマ徳山製造所とともに共同実施機関としての参画です。どのような思いでしょうか。

日高 活力ある社会の維持・発展には、多様性を持った社会構造が不可欠で、男女共同参画はその根幹の一つです。国立高専機構では、男女共同参画宣言、さらにダイバーシティ推進宣言を行って、女子学生や女性教員の在任・在籍比率アップ、多様な学生が相互理解を深めながら実践的技術者としてキャリア形成できる高専教育、男女ともに教職員が仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)を図り、教育・研究活動に力を発揮できる職場づくりなどを進めています。

今回の事業によって、教職員や学生が男女共同参画を「自分のこと」としてより理解を深め、特に科学技術分野で遅れている取り組みがもっと進捗することを期待します。

井上 山口東京理科大学では、薬学部の教員は約11%ほどが女性です。しかし、工学部の女性教員は今回調査すると、現在1人だけであることが分かりました。

総務省の科学技術研究調査によると、全国の大学・企業等の女性研究者数は15万8900人(2020年3月)で、年々増えていますが、研究者全体に占める割合は16.9%に過ぎません。



せん。専門分野別では薬学・看護等には女性が比較的多いものの、研究者としての需要が多い工学、理学分野では女性の割合が特に低くなっています。

本学でも実情を再認識し、昨年12月に女性活躍推進委員会を設置し、また、SOCUダイバーシティ推進室(仮称)の新設も予定しており、全学的に女性教員・研究者を増やすよう取り組みます。



研究とライフイベント両立「リケジョ」の活躍を支援

鍋山 近年、労働者全体に占める女性の割合は上昇しています。しかし、日本には男性中心の働き方を前提とする労働慣行や固定的な性別分業意識も残っており、性別に関係なく学んで能力を高めてきた女性が社会に出た後、出産や子育てなどを理由に社会での活躍を諦めてしまうことも少なくありません。

男女共同参画を進めるためには、女性が出産・育児といったライフイベントを迎えても、生産活動を継続していくことが大切です。本事業では、研究と出産・育児・介護との両立や、女性研究者の研究力向上を通じてリーダーの育成を推進し、組織での女性の上位職登用も目指します。

井上 理工系女子や、いわゆる「リケジョ」を目指そうという取り組みもあって、工学部の女子学生が増え、大学院も修士課程では女子が見られるようになりました。しかし、博士課程までは進みません。理由を聞くと、「就職の際の選択範囲が狭くなるから」と言います。

高等教育機関や企業等は、若い女性研究者がこうした心配をすることがないように活躍の場を提供する必要があります。薬学部は女性7、男性3ぐらいの割合で薬剤師を輩出し、量的には女性が男性をしのいでいます。

しかし、病院の薬剤師部門などで意思決定に参画する管理職

のトップは、男性が多くを占めているのが現状です。本学の薬学部は2018年に開設、新年度から4年目に入り、3年後には大学院を設置できるように計画を進めています。

薬学部生は女性が6割を占めており、大学院に進学して研究職や病院・薬局、製薬産業など様々な領域で活躍するリーダーキーパーソンを目指すよう、学費や生活面などを含めて支援策を充実したいと思っています。

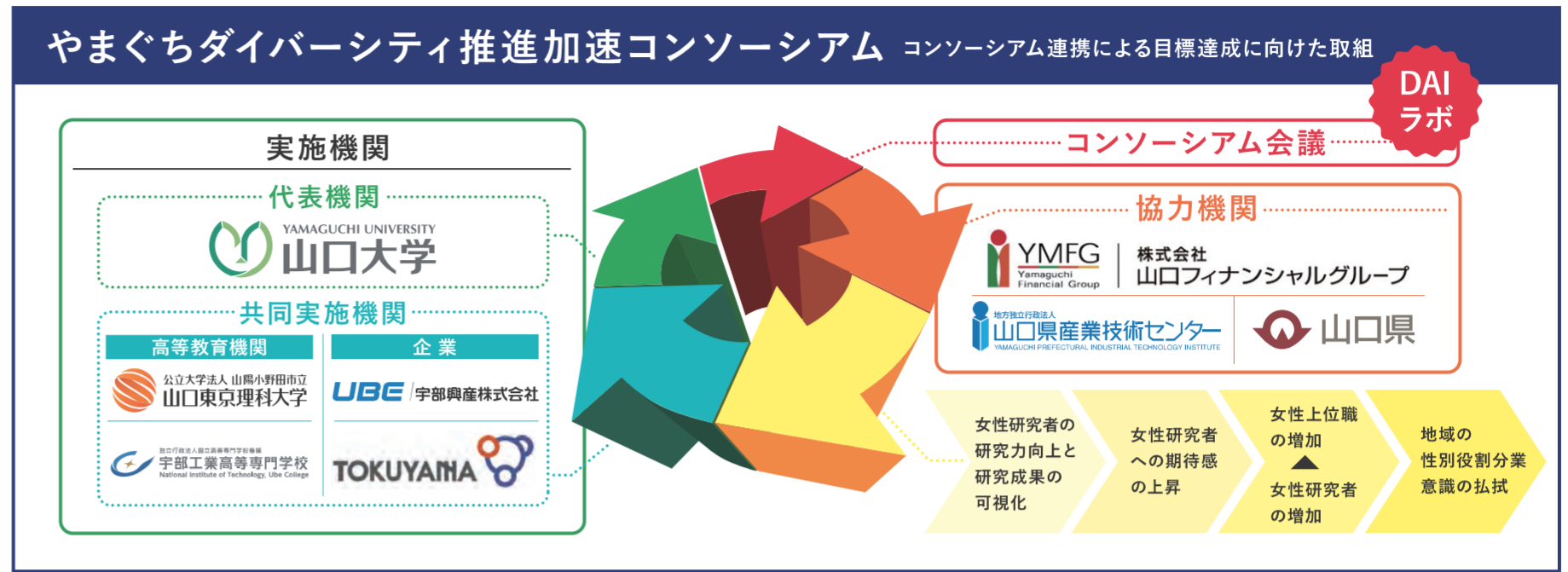
日高 「リケジョ」を増やすためには、裾野を広げる取り組みも大切です。科学技術振興機構(JST)は、女子中高生らの理系進路選択支援プログラムを実施しており、私たち高専では中学生とその進路決定に関わることが多い保護者や教員を対象に、オープンキャンパスを開くなどして、女子生徒等の理系分野への興味・関心の醸成、進路選択を促進するための様々なアプローチを行っています。

しかし、高校から大学への進学でも同様と思いますが、中高生らに理工系で何を学び、それが将来の研究職などへの道とどのようにつながるのかを理解してもらうのは難しいところがあります。

今回の事業を通して、女子中高生やその保護者らに、理工系分野で活躍する多様な女性の姿を身近なロールモデルとして示し、中高生が将来の自分の仕事としてイメージを膨らませることができるようにしなければなりません。

ダイバーシティ推進 女性研究者ネットワークを新設

鍋山 世界経済フォーラム(WEF)は毎年、経済、政治、教育、健康の分野のデータから男女格差を測るジェンダー・ギャップ指数(Gender Gap Index:GGI)を発表しており、2020年の日本の総合順位は153か国中121位でした。項目ごと



の評価では、読み書き能力や初等教育では男女の格差がないのに、高等教育(大学・大学院)、政治家・経営管理職、教授・専門職、国会議員数などで、男女に大きな差ができています。

山口大学は2017年に、女性研究者支援室と男女共同参画推進室の2組織を発展的に統合したダイバーシティ推進室を設け、「ダイバーシティ・キャンパスの実現」を目指して取組を進めています。しかし、2020年3月の時点で、女性研究者比率は全体で17.4%、理系学部17.3%、さらに、上位職(教授以上)になると11.1%、大学の意思決定機関では7.6%と低い現状です。

本事業の目標と行動計画では、異分野・他機関との共同研究を進め、研究力の向上を図るとともに、女性研究者の比率を全体で21.5%、理系学部20.0%、上位職13.0%、意思決定機関で10.0%に増やすことを掲げています。全ての大学人と地域の人々が、共感・協働して、ジェンダー・ギャップの縮小・解消に寄するよう力を合わせたいと思います。それぞれの組織では少人数でも連携して力を発揮するため、女性研究者のネットワーク新設も計画しています。

日高 「男女格差をなくそう」と理念を掲げただけでは実効性に欠けるとして、1970年代以降、北欧などで導入されたのが「クオータ制」です。クオータ制とは、議員や企業の管理職などの一定割合を、女性に振り分ける制度です。内閣府男女共同参画局の資料(2020年3月)によると、世界196か国・地域のうち、韓国やアフリカ諸国も含めた113か国・地域で採用されていますが、日本は採用していませんが、世界で少数派に属しています。

本事業では宇部高専も、女性の研究者割合、新規採用割合各20.0%を掲げています。社会がより成熟し、発展していくためには、ダイバーシティ(多様性)がいかに重要であるかを改めて認識し、様々なバックボーンと考えを持つ人たちが、互いを認め合い、刺激し合って、各分野での積み重ねによる有意義な連鎖反応が必要です。本事業では、クオータ制を視野に入れ、多様な働き方や有能な女性研究者の確保などにつながるよう努めます。



井上 数値目標を掲げて、女性の積極登用を促し多様性を後押しすることは大事です。しかし、数値目標だけが先走って、性別による判断だけで昇進などを決めると、自由な競争や公平な人事評価ができなくなってしまう恐れがあります。

日本の女性は、出産や育児などのライフイベントにより、フルタイム勤務や経験を積むことが男性に比べて難しいという側面もあります。こうしたハンデを克服して、男女共同社会に参画するには、急速な技術革新を見据えた社会人の再教育、リカレント教育の一層の推進も必要です。高等教育機関は、社会のニーズに対応した実践的なプログラムを開発・実践し、誰もがいくつになってもチャレンジできる社会の構築に寄与しなければなりません。

多様な人材が融合して共同研究 社会的な諸課題を解決

鍋山 今回の事業は、女性研究者の活躍推進がメインですが、山口大学ではダイバーシティ(Diversity)と人工知能(AI)を掛け合わせた機能を持つ「DAIラボ」(ダイラボ)を新設し、AI解析が可能なサーバーを活用して、男女を問わず多様な研究者、学部や組織、企業など産学公が連携・融合して共同研究を行い、いろいろな属性の人が個性を生かして成果を導きます。

様々な研究活動が想定されますが、例えば、山口県は島根県と並んで高齢化率が全国3位の高さになりました。関連のデータを解析して、少子高齢化の中でより有効な「人」と「人」と「サービス」のマッチング関係を探ったり、場合によっては制度や対応の改善を提言したりなどして、ソーシャル・イノベーション(社会的課題の革新的解決)を図ることができるのではないのでしょうか。

井上 社会的課題と言えば、現在進行中の新型コロナウイルス感染症のような未知の感染症や疾病、日本では減ってしまいが世界では爆発的に増えている人口問題、それに伴う食糧問題、様々な格差など、地域から世界につながる課題が山積しています。

これらローカル、グローバルの課題を克服するため、国連はミレニアム開発目標(MDGs)を策定、さらに持続可能な開発目標(SDGs)を採択して、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標を掲げています。健康や教育、働きがいや経済成長、街づくりまでを含めたターゲットに、様々なアクションプランが示されており、私たちも無関心ではいられません。

日高 教育界に対しては、持続可能な社会づくりの担い手を育てるための教育(ESD)が提唱されています。教育機関もまた、多様化して相互に絡み合う社会課題の解決に向けて「知」を結集しなければなりません。

研究成果を、社会で実装するために、これまでの枠組みを変える必要が出てくる場合もあります。既存の専門領域で閉じているのではなく、他の専門領域、産業界などと業種を超えた連携で、複眼的な視点で課題に向き合う必要があります。大学・高専や研究機関が企業等と連携し、その他の機関も含めて地域や分野における女性研究者の活躍促進を牽引する本事業の取り組みは、こうした持続可能な社会づくりでも展開を開きます。

有機的な「知」の連鎖を誘発 時代の変化とニーズに対応

鍋山 事業遂行に当たっては、代表・共同実施5機関の他に、

協力機関として山口県産業技術センター、山口フィナンシャルグループ、それに山口県(行政)が加わってコンソーシアムを形成します。協力機関はさらに増える予定です。代表・共同実施の5機関は、共同研究、研究者の裾野拡大、女性研究者育成、さらに女性研究者技術者のロールモデル構築などを担います。協力機関は、地域・企業への情報発信、研究成果の実用化やベンチャー企業化・商品化などを推進します。

様々な課題解決のためには、例えば課題を抱える事業者、行政の政策担当者、研究者など、多様な人たちが、互いを尊重しながら知見を寄せ合うことが大切です。

私たちが本事業で形成するコンソーシアムは、社会に変革をもたらす、まさに魅力的な共同事業体、共同研究体です。有機的な「知」の連鎖を誘発して、時代の変化とニーズにしっかり対応し、地域に貢献したいと思います。



日高 日本の研究は、一つの専門分野を深く追求することを「よし」とする傾向もあって、例えばモーターの研究は成熟したとされて研究者が少なくなり、次世代の電気自動車開発でアメリカや中国に遅れるような事態も起きています。

科学技術開発に乗り遅れないためには、様々な分野のスペシャリストが連携し合って研究開発を進めることが大切です。また、専門家の説明は難しく、科学技術が日々の暮らしの中でどのように活用されるのかなどを一般の人に理解してもらい、実用化に結び付けるのは難しいこともあります。今回の事業で理系と文系、さらにその中でも多様な連携・融合が期待できる体制は、多くの研究者が歓迎しています。

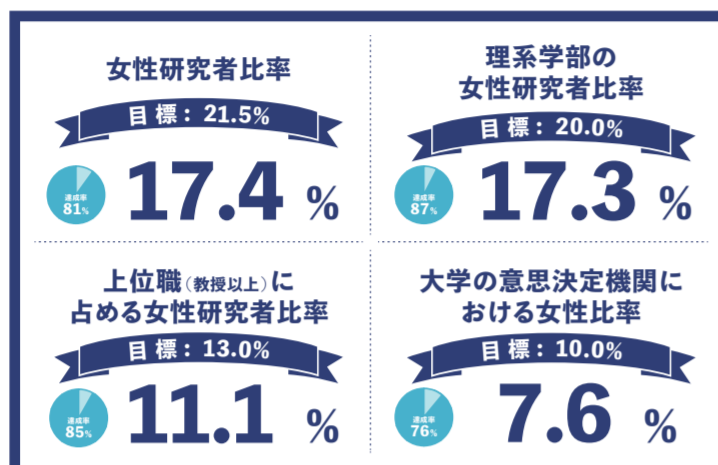
井上 科学技術の進歩は目覚ましく、例えば薬剤はどんどん新薬が開発されて、日々学び続けなければ実務の現場で対応できません。設置予定の大学院を、薬剤師として社会で活躍する人たちが学び直りリカレント教育の場としても提供し、キャリアアップに活用してもらいたいと思います。

高齢化が進み、人生100年時代は完全に射程に入ってきました。「DAIラボ」の活用では、薬剤の使用歴と薬効、逆に副作用などをデータ化して解析し、健康長寿や医療経済の改善などに役立てることができそうです。

今回のプログラムが、人々と社会の健康、地域の活性化に貢献できることを期待します。

Numerical goal 数 値 目 標

事業期間：令和2年度～令和7年度（令和4年度まで補助金交付） 女性研究者数値の現状と目標



山口大学の取組に関する課題

- 課題1** 女性教員比率が伸び悩み、意思決定に関わる女性比率が低い。
- 課題2** 上位職（教授以上）に占める女性研究者の割合が低い
- 課題3** キャンパスが地理的に離れており、異分野融合研究の実施が困難

Office work efficiency improvement project 事務作業効率化プロジェクト

今年度7月に、教職員の皆さまのワーク・ライフ・バランスを促進するための施策の一環として、「事務作業効率化プロジェクト」を立ち上げました。

これまでも事務局では業務改善に努めてきましたが、今回は新たな視点として、様式などを実際に使用する教職員の皆さまからご意見を収集して、スピード感のある改善を行うことを目的とし、日頃の事務作業や様式に従った文書作成において、効率化や省略などの改善案を募集しました。これまでにいただいたご意見については、ダイバーシティ推進室と担当部局が、協議・調整をすることにより、様式の改訂や作業工程の見直しを進めてきました。担当係との折衝や法規上の理由により改善が難しい案件も一部ありましたが、2021年2月現在で15件の改善要求を頂戴し、既に10件の改善及び3件の前向き回答を得ることができています。



なお、本プロジェクトは来年度も受け付けていますので、今後も日々の業務の中で思い当たる案件がありましたら、是非ご意見をお寄せください。

Higher rank training position 上位職育成ポジション

山口大学では、意思決定機関等における女性比率*が低いことが課題となっています。



本事業では、新たに上位職育成ポジションを導入します。上位職育成ポジションでは、次世代を担う女性研究者に、学部の副学部長(名称付与)として、学部運営を担いながら大学の意思決定の場で経験を積んでいただき、その結果として意思決定機関に就く女性研究者の増加を目指します。

*「意思決定機関等における女性比率」とは、学長補佐等、経営協議会(学内委員)、教育研究評議会評議員、部局長等、監事、非常勤理事、経営協議会等(学外委員)、非常勤監事を指します。

Introduction of female researchers 女性研究者紹介

令和2年度「AI研究デザインプロジェクトスタート支援」において研究に着手された女性の方々に研究の面白さについて伺いました。

大学院創成科学研究科
(農学系学域)
生物資源環境科学分野
教授 竹松 葉子



私の研究テーマは、生物多様性です。昔から生き物が好きだった私は、その生き物を身近に見て触れることのできる仕事をしたいと思い、気がつけば研究者になっていました。つまり、「生物多様性」を最も身近で享受するために、生物多様性を研究する道を選びました。普通ではなかなか行くことのできない前人未踏の地であればなお、楽しいです！

学校教育教員養成課程
心理学選修
准教授 春日 由美



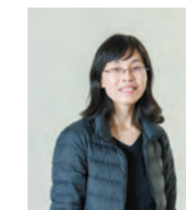
自分が考えたアイデアを研究や実践につなげていくことができること、そして少しでも人の役に立つことができることは、研究の面白さだと思います。私の研究は人を対象とするので、研究を通して、さまざまな人とつながりができることも魅力だと感じています。

共同獣医学部
病態制御学講座
准教授 三宅 在子



研究の面白さは、全く新しい発見ができる点です。また、その発見に至る道筋を考え組み立てる家過程の面白さ、それらを実践し、期待していた結果が得られた際の嬉しさもあります。時には、予想とは異なるけれど、とても興味深い結果が得られることもあります。研究対象のウイルスは、非常にシンプルな構造でありながら宿主と共存・相克する高度なシステムをもつ、とても面白い存在です。また、感染症の分野では、研究成果が病気の予防や制圧に繋がる可能性もあり、やりがいの一つとなります。

大学院創成科学研究科
(理学系学域)
情報科学分野
准教授 韓 先花



私は主に機械学習や人工知能技術の開発及び様々な画像処理・解析・理解などの応用研究を行っています。感じる研究の面白さは以下の3点です。
(1) 人工知能技術は様々な分野との融合が可能であり、自分の好きな応用研究を行うことができること
(2) 世の中の実問題を自分の研究や努力によって解決できる楽しさがあること
(3) 学会で世界の研究者と出会い、話せること。

教育・学生支援機構
アドミッションセンター
准教授 林 寛子



私自身が高校時代に経験した挫折や反抗から、大学進学後、自らを落ちこぼれと感じていました。しかし、高校時代の経験は、大学で社会学を学び、社会問題としてとらえて研究することで整理されました。以降、若者の自立に関する研究、特に高校生の進路選択を中心として、社会を観察し、改善のための検討を続けています。この研究成果をアドミッションセンター教員として、実際に大学入試や高大接続等の改善のために働きかけることができることに意義を感じています。

時間学研究所
時間生物学
助教 松村 律子



研究は、創造活動であり、自分を表現する場でもあると思っています。興味を持ったことに対して、自ら企画、立案し、試行錯誤して実験を行います。一つの実験にしても、その人のセンスが現れます。結果は論文としてまとめて公表します。自分を表現して、世に認められれば、それは大変に嬉しいことです。私にとって研究の面白さとは、そのような点に尽きます。



研究支援

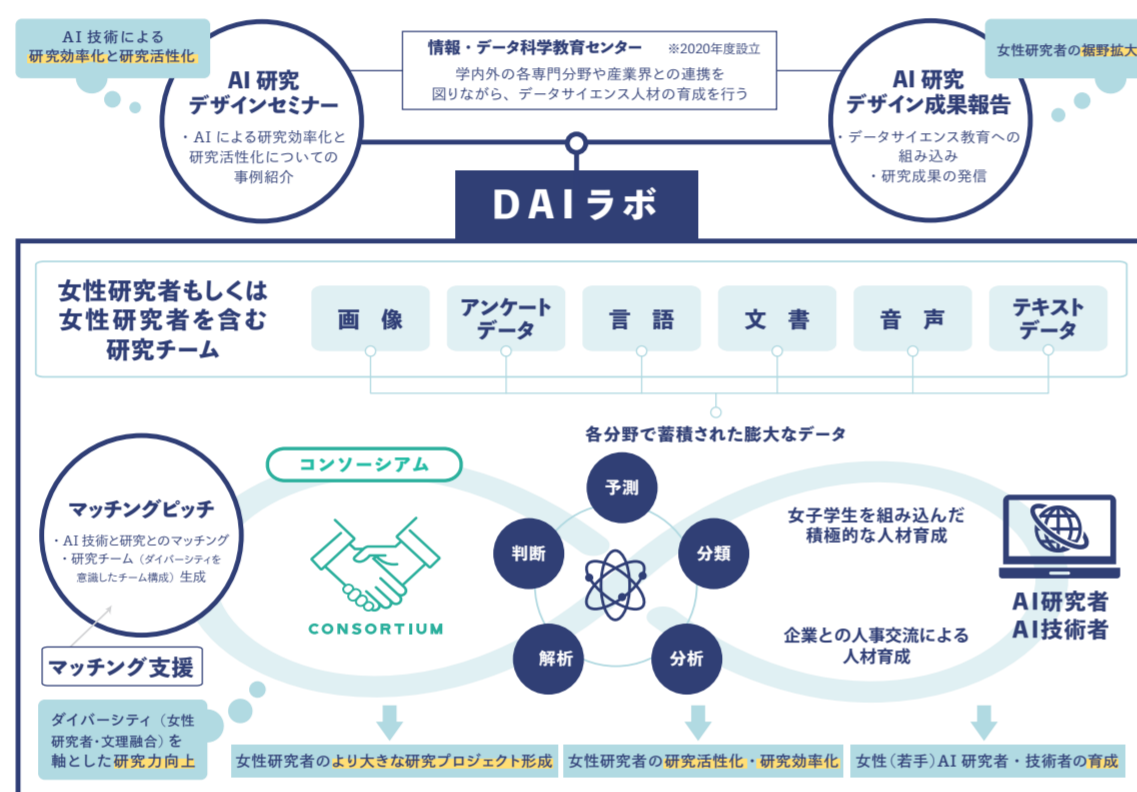
AI research design project AI研究デザインプロジェクト

AI研究デザインプロジェクトは、女性研究者を含むチームの研究にAI技術を適用し、DAI (Diversity × AI) ラボを利用することにより、研究活性化・効率化を目指すプロジェクトです。

プロジェクト内容として、

- ①文系・理系問わず、AI技術の適用で広がる研究の可能性についての理解を深めていただくための「AI研究デザインセミナー」の実施
- ②女性研究者や他機関の研究者との共同研究を促進するためのマッチングを行う「マッチングピッチ」
- ③「DAIラボ」の活用
- ④①～③の成果を広く周知することを目的とした「AI研究デザイン成果報告会」の実施

「DAIラボ」とは、AI解析が可能なラボラトリーのごとで、学部間や他組織の共同研究を促進することも目指しています。ご利用を希望される方は、ダイバーシティ推進室までお問い合わせください。



AI research design project support AI研究デザインプロジェクト支援

AI技術を適用しようとするデータを扱った研究をしている研究者、または、AI技術の研究を行っている研究者に対し、研究経費の補助を行います。

【条件】

- ・本学の研究者のうち、AI技術を適用しようとするデータを扱った研究をしている研究グループ（個人でも可）または、AI技術の研究を行っている研究グループ。
- ・研究グループには女性研究者を含むものとし、代表者が女性研究者であるグループを優先します。

※2020年度には「AI研究デザインプロジェクトスタート支援」の公募を行い、6つの研究チームへの助成が決定しました。

English proofreading cost support 英文校閲費用支援

女性研究者を対象として、学術雑誌・学術図書への投稿論文の英文校閲費用を助成します。

国際論文投稿の促進を目的としています。

※募集の詳細や時期については、決まり次第お知らせします。



実施報告

Long-term care seminar 介護セミナー

ワーク・ライフ・バランスにおいて、介護や育児は重要な課題です。介護に関しては、いつ始まるかわからないからこそ、事前準備が大切です。事前準備とは、介護サービスや両立支援制度の概要を把握しておくこと、介護に直面した時にどこに相談すれば良いか、その窓口を知っておくことなどです。いざというときに慌てないよう、ダイバーシティ推進室では、支援制度について様々な方法で情報を発信していきます。

その一環として、昨年11月29日（日）山口グランドホテルにて介護セミナー「高齢者を地域包括ケアシステムにつなぐ」を実施しました。このセミナーは、仕事と介護の両立を開始する時期の困難として多くの方が経験される「老親の介護サービスの受け入れ拒否」に焦点を絞り、地域包括ケアシステムに高齢者をつなぐ方策や、家族介護の新しい在り方を模索することを目的として、介護の最前線で従事されているケアマネージャー、医療ソーシャルワーカー、看護師の方々に講師に招き、講演やパネルディスカッションを行いました。

参加者からは、「最前線の介護現場での事例を出されて分かりやすかった」、「介護に関してどんなことが大切か必要か理解できた」、などの感想がありました。仕事と介護の両立を可能とするための有意義なセミナーとなりました。



AI Research Design Seminar AI研究デザインセミナー

2020年12月18日（金）「AI研究デザインセミナー」を開催しました。本セミナーでは、AI研究デザインプロジェクトの紹介及びAI技術による研究の可能性について事例紹介を行いました。

まず、ダイバーシティ推進室長の鍋山祥子副学長より事業説明を行い、次に、情報・データ科学教育センター長である松野浩嗣理事から「AIでできること～学内と県内企業の事例から～」と題して講演があり、AI技術を適用した研究の具体例を示しながら、AIの可能性を分かりやすくご説明いただき、最後に、大学院医学系研究科法医学講座の高瀬泉教授より、自身の研究にAI技術を活用した事例として「児童虐待事案の医学判断へのAI活用」と題して講演いただきました。

参加者からは、「今後、可能であればAIを取り入れたい」「事例紹介が分かりやすく、自分の研究への活用がイメージしやすくなった」などの感想がありました。

「AI研究デザインプロジェクト」推進のために、今後もセミナー等を実施していきます。是非ご参加ください。



Female Researcher Network 女性研究者ネットワーク

「機関を越えた女性研究者のネットワークづくり」

山口県的女性研究者の活躍を推進するために

「女性研究者ネットワーク」を立ち上げます。

学部や機関を越えて女性研究者が交流し、

意見交換や情報共有を行うことのできる環境を整備します。



現在は8機関（山口大学、山口東京理科大学、宇部工業高等専門学校、宇部興産株式会社、株式会社トクヤマ徳山製造所）の女性研究者からスタートしますが、今後、県内企業、研究機関、高等教育機関などの参画機関を拡大し、山口県地域全体の女性研究者活躍を促進したいと考えています。機関を越えたネットワークを構築することで、それぞれの機関では少ない女性研究者同士が交流し、繋がりを広げるなかで、互いにロールモデルの役割を担ったり、また多様な視点と発想による研究の活性化を目指します。

このネットワークを活用し、交流を広げ、色々な情報交換に役立てて欲しいと思います。ぜひお気軽にご参加ください。

第1回は、山口大学において3月2日に、第2回は、山口東京理科大学において3月8日に開催しました。来年度以降は、複数機関の女性研究者による交流を行う予定です。

